

## ～歴史の道とその周辺の文化財～

琉球王府時代（1429～1879）には、首里を起点にいくつかの主要道（宿道）がつくられた。歴史の道「国頭方西海道」も宿道の一つである。宿道は幅約2.4mあり、その両側には松並木が続いている。しかし、その後の国道の開通や戦争により、これらの姿は大きく変化していった。

沖縄県の調査に基づき、恩納村では、保存状態のよい仲泊一里塚から読谷村との境近辺、御待毛までの整備を行った。石垣や道路の修復、案内板、東屋等の設置を行い、気軽に歴史散策が楽しめるようになっている。

この地区は平成8年11月に文化庁の「歴史の道百選」に選定された。また建設省の「歴史国道整備事業」にも選定され、整備が進められている。

### ◆唐人墓碑（村指定文化財）

1824年、中国福建省の商船が難破し、乗組員32名中26名は船もろとも溺死、6名が水おけに乗り漂流し、仲泊の浜に打ち上げられたが、すでに5名が死に、1人のみ仲泊の人々の温かい看護のもと九死に一生を得て無事本国に戻った。この碑に漂着者5名の名が刻まれている。

（平成3年12月5日指定）



### ◆仲泊遺跡（国指定史跡）



4つの貝塚と1つの洞、比屋根坂石畳道からなる約3,500年前の遺跡である。

特に第3貝塚周辺では岩陰住居址が確認された。

石畳道は仲泊側からイユミバンタを通り、久良波側に抜ける道で、この近辺は1609年の薩摩の侵攻時に琉球王府との戦いの場になったという伝説の地でもある。この石畳道は明治末まで使用されていたという。

（昭和50年4月7日指定）



### ◆山田グスク

山田グスクは代々山田按司が住んでいたグスクである。

山田按司の3代目（4代目とする説もある）護佐丸は、尚巴志の三山統一に貢献した。護佐丸は1416年、尚巴志の命を受け北山討伐を成し遂げた後、座喜味に居城を移すが、その際山田グスクの石垣を手渡しで座喜味に運んだと伝承されている。

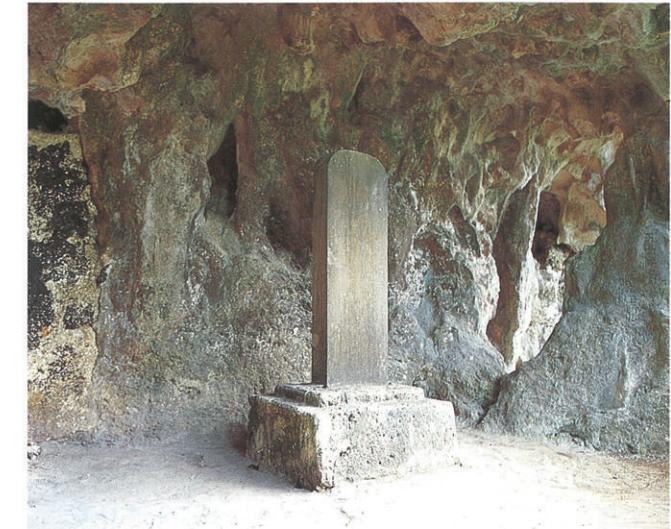
建物跡があったことを示す柱穴や青磁器、刀子玉類、矢じり、唐銭類が多数出土している。



### ◆護佐丸父祖の墓碑

山田グスクの中央部の中腹、石灰岩の自然穴を利用して造られている。

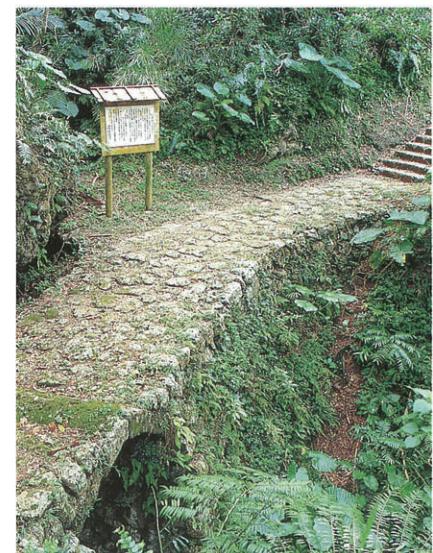
墓碑は1740年に建てられ、墓を修復した旨の碑文が残っている。この墓は護佐丸を祖とする毛氏系や山田区民が拝している。



### ◆山田谷川の石缸

山田グスクの北側崖下を流れる「谷川」に石缸が架けられている。この石缸は琉球石灰岩の野面積みの桁部分に、中央部がせり上がった特徴のある独特なアーチ形式のものである。

現在の石缸は、既存の石4枚を組み合わせて修復したものである。



## ◆フェーレー岩

たこう やま  
多幸山山中は国頭方西海道の中でも難所の一つとされていた。昼でも薄暗く、フェーレー（山賊）が出没したと言われ、当時行き交う人々に恐れられていた場所もある。中でもこの岩近辺は、フェーレーが頻繁に岩の上から婦人の持つ荷を吊し上げて奪ったという伝説が残る地域である。

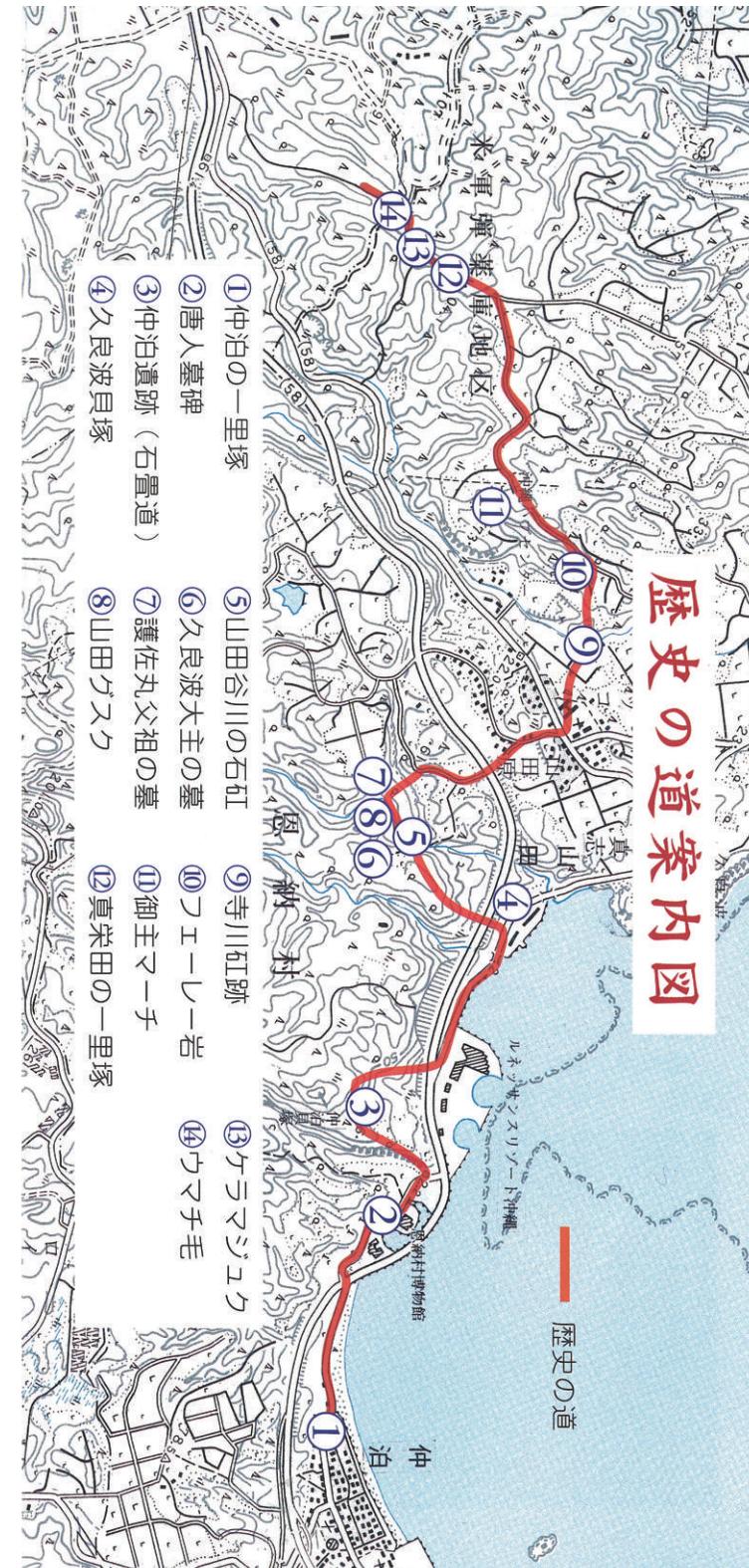


## ◆真栄田の一里塚 (村指定文化財)

たこう やま  
多幸山山中（真栄田部落側）を通る宿道沿いに造られている。人工による盛土（炭混入土）で造られている。

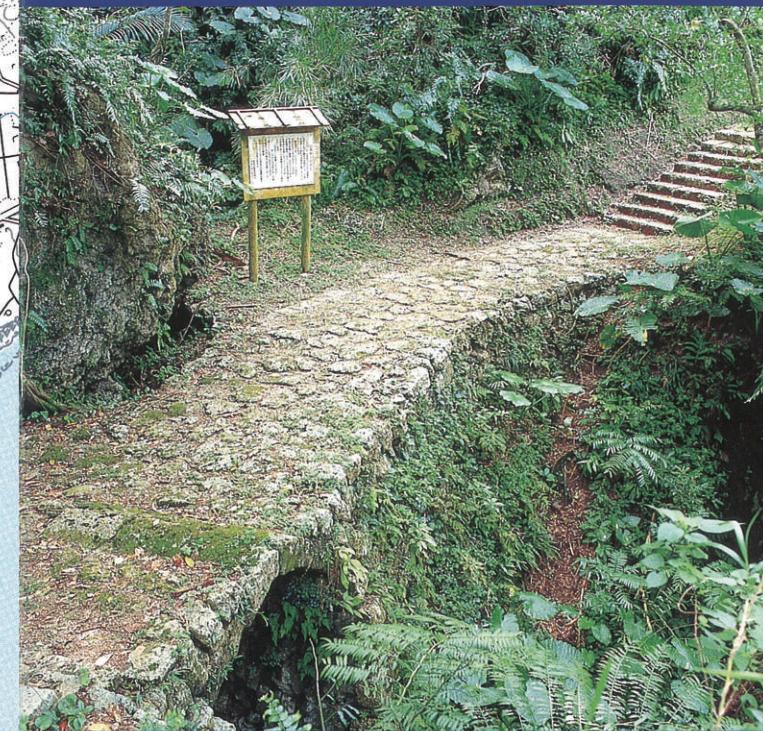
東側は畑地開墾によって失われたが、その形だけ簡単に盛土してある。恩納村には5箇所の一里塚があったが、仲泊とここにだけ残っている。また県内でも一里区間を示す2カ所の一里塚が残っているのは、恩納村だけであり、貴重な交通遺跡となっている。

(平成3年12月5日指定)



## 歴史の道

くに がみ ほう せい かい どう  
**国頭方西海道**



恩納村教育委員会